

## 第1部会のめざす方向

### 人材育成の場づくり

産業界のニーズにあった「質」の高い人材育成基盤整備

〈必要なプラットフォームの役割〉

各技術者のスコープに応じた人材育成・支援の役割。

【機構の役割に関する会員からの要望(ヒアリング結果)】

- 実装などのもっと実践的なカリキュラムがほしい
- もっと適塾を仕事をしながら受講しやすい工夫をしてほしい

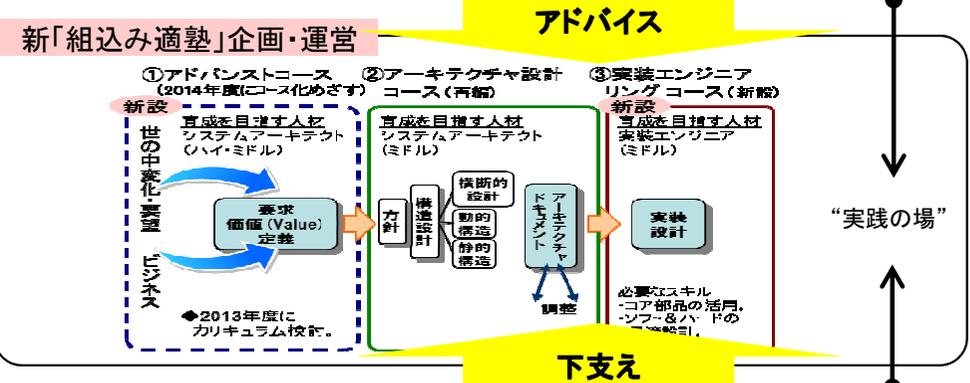
### 高度人材の輩出

### 第1部会のめざす方向

(参照)2011年12月9日 第7回企画運営委員会より

## 2013年度の事業計画

次世代の人材育成に向けたビジョンづくりと情報発信 “意見交換の場”



カリキュラム研究 アーキテクティング研究会 “研究の場”

(参照)2013年4月25日 第1回1部会より

## 2013年度の活動計画

### (施策①)「組込み適塾」

- ・ アーキテクチャ設計コースおよび実装エンジニアリングコースの設定、遠隔講義の充実。

### (施策②)「組込み適塾」における新たなコースの検討

- ・ 「新市場の開拓・新ビジネスモデル構築」への対応力強化、及び組込み製品の価値拡大、性能向上と安心・安全を実現できる人材の育成。

### (施策③)次世代を担う人材育成のあり方にむけた検討

- ・ 次世代を担う組込みシステム技術者は今後何を求められるのか、その人材をどの様に育成していくべきかについて情報発信の場を創出するとともに、ビジョンの検討を行う。

## 2013年度の実績

### (実績①)第6回適塾は、東北を含め100名以上が受講し一定の好評を得た。

- ・ カリキュラム再編により受講ターゲットが明確になり受講生を派遣しやすかった。適塾説明会も理解深化に繋がった。
- ・ 科目一括受講生が倍増し、複数のカリキュラムで一緒になる受講生が増え交流深化・講義の活発化に繋がった。
- ・ 宮城県での遠隔配信も県の復興施策と連携しており有益であったと好評を得た。

### (実績②)Whatを設計できる人材育成を目指してカリキュラムを検討し、次年度より新たなコースとして設定した。

- ・ アーキテクティング研究会を中心に、ハイレベルアーキテクトに求められるスキルを検討し、カリキュラムとして定義した。

### (実績③)「教育事業懇話会」にて各企業の社内教育を紹介し合い具体的な課題についての意見交換を実現した。

- ・ 個別部門での人材育成に加えて、全社的な取り組みとして人材育成を継続するのが共通の課題であることが判明した。

(参照)2014年3月12日 第4回企画運営委員会より

## 第2部会のめざす方向

### ビジネス機会創出の場づくり

国内外市場展開・開発拠点として、関西が受発注の要に！

〈必要なプラットフォームの役割〉

- ・受発注活性化支援、ビジネス化支援の役割
- ・対象領域・業容拡大支援の役割

【機構の役割に関する会員からの要望(ヒアリング結果)】

- 受発注の活性化に向け踏み込んだ活動の場がほしい

### 国内外受発注の活発化

### 第2部会のめざす方向

(参照)2011年12月9日 第7回企画運営委員会より

## 2013年度の事業計画

### 会員要望の高い「企業出張展示」を中心とした活動

年2回実施とし、成長が期待される「ヘルスケア」「ロボット」「新エネルギー」等の新たな分野を意識すると共に、関西での開催に加え、他地域での開催を検討する。

### プライベートセミナー等を通じた情報共有・課題解決の場の創出

「ヘルスケア」「ロボット」「新エネルギー」等の新たな分野に関するニーズ・シーズの最新情報や会員各社の抱える開発課題やその対策等についての情報共有・課題解決の場を創出すると共に、研究会活動のきっかけづくりに取り組む。

(参照)2013年6月6日 第4回総会より

## 2013年度の活動計画

### (施策①)会員企業のビジネス受発注機会創出・拡大

- ・出張展示を年2回開催継続、新たな注力分野の企業への出展や他地域市場開拓にチャレンジ

### (施策②)新たな分野に関する情報共有・課題解決の場創出

- ・昨年試行したプライベートセミナーを、新たな注力分野に先行して進出している企業の講演と懇親会形式で継続し、研究会発足のきっかけづくりをめざす

### (施策③)海外連携支援

- ・ベトナム等、アジアを中心とした動向情報発信を行う

## 2013年度の実績

### (実績①)ロボット分野特集として川崎重工業で実施。また、関西圏外に所在する富士通(東京)で実施。

- ・川崎重工業では、来場者の概ね1割の後日アポに繋がった。3ヶ月後調査では一部受注に繋がったとの報告あり。その後の調査により、H24年度に開催した2回とを加えた計3回の出張展示をきっかけに、少なくとも受注6件(5社)、予測総額1千万円以上のビジネスに繋がった。(H26/03現在)。

- ・富士通(初めての関西圏外実施)では、ヘルスケア、エネルギーに加え、カーエ、クラウドなどを出展テーマとして開催。来場者の約1割の後日アポに繋がった。

### (実績②)新たな注力各分野をテーマとしてプライベートセミナー全4回を実施。ロボット関係では「人にやさしいロボット研究会」発足に繋がった。

### (実績③)3年前の調査時からかなり状況変化があるため、改めて会員ニーズを確認した上で、今後の方針を検討する必要があると判断し、

今年度はジェット口等の情報を発信したのみ。

(参照)2014年3月12日 第4回企画運営委員会より

## 第2部会のめざす方向

### 競争力強化の場づくり

製品開発力をもつ企業集団とそれを支える開発支援環境整備

〈必要なプラットフォームの役割〉

- ・開発環境・ノウハウ集積・検証環境整備支援の役割
  - ・高信頼性に裏打ちされた利活用のための開発ネットワーク整備
- 【機構の役割に関する会員からの要望(ヒアリング結果)】
- グローバル競争力強化には自社の自主努力だけでは達成が難しく、企業集団での対策検討が必要。

関西に先端技術⇒コア技術開発連携ネットワーク(産学官)形成

〈必要なプラットフォームの役割〉

- ・コア技術開発連携拠点の役割

【機構の役割に関する会員からの要望(ヒアリング結果)】

- 競争力あるコア技術を自社にもちたい

### 製品開発力の競争力強化

### 第2部会のめざす方向

(参照)2011年12月9日 第7回企画運営委員会より

## 2013年度の事業計画

産総研関西センター様と連携した検証サービスの展開を始めとする組込みシステム開発力強化に向けた施策の充実

プライベートセミナー等を通じた情報共有・課題解決の場の創出

(参照)2013年6月6日 第4回総会より

## 2013年度の活動計画

### (施策①)組込みシステム開発力強化に向けた施策の充実

- ・産総研との連携による検証サービスはニーズに応じて継続(目標:利用6件)
- ・新たな分野拡大等を意識した組込みシステム開発力強化に向けた施策を産学官連携のもと検討する

### (施策②) QCD向上と安心・安全の両立に向けた情報共有・課題解決の場の創出

- ・機能安全、開発手法等に関するニーズ・シーズの最新情報や会員各社の抱える開発課題やその対策等についての情報共有・課題解決の場を創出するとともに、研究会活動のきっかけづくりに取り組む。

## 2013年度の実績

### (実績①)検証サービスは1社新たに契約し、計4件の利用。また、産総研オープンラボツアーを企画と連携して試行。

- ・ソフトウェア品質向上に貢献。ただし、サービスの継続は設備老朽化等要検討
- ・企画と連携し、産総研オープンラボツアーを試行し、コア技術獲得のためのシーズ・ニーズ調査実施

### (実績②)今年度の主な活動は企画で実施しているAISTとの合同セミナー(企画・広報)での情報発信のみ

- ・2014年2月27日「開発力強化検討WG」発足会実施。2014年度より本格活動予定

(参照)2014年3月12日 第4回企画運営委員会より

## 企画・広報のめざす方向

情報発信交流の場づくり 他地域連携の場づくり 会員協働の場づくり

国内外の情報集積・発信「組込み産業の情報、技術情報」

フロンティア領域拡大にも役立つ

<必要なプラットフォームの役割>

・情報集積・発信拠点の役割、交流拠点の役割、連携拠点の役割

⇒関西に企業拠点機能設置促進

各部会活動活発化

【機構の役割に関する会員からの要望(ヒアリング結果)】

●ビジネスチャンスの拡大、情報収集、人脈形成を一番期待する

製品開発力の競争力強化

高度人材の輩出

国内外受発注の活発化

(参照)2011年12月9日 第7回企画運営委員会より

## 2013年度の事業計画

機構活動の戦略立案・研究会活動の活発化・地域連携推進と会員交流の充実

- ◆ステップ3の活動方針に基づいた機構活動の戦略立案を行う。
- ◆会員同士で課題を共有して活動する研究会の活動を活発化させる。
- ◆地域連携推進や機構会員交流による機構活動の活性化、広報活動などを通じた機構活動のPRと会員拡充を目指す。

(参照)2013年6月6日 第4回総会より

## 2013年度の活動計画

### (施策①)戦略的な企画立案と実践

- ・全国各地域との連携強化や企業・大学・行政等との連携強化に取組み、「産学官協働プラットフォーム」の基盤強化を推進
- ・競争力強化に向けた先端コア技術に関する最新情報収集と会員企業への情報提供とともに、産学官の共同研究連携ネットワークづくりに向けた施策検討
- ・新たな分野拡大に向け組込みシステムに関する国内外情報発信拠点としての役割強化を図ることに加え、部会活動に直結する情報発信の場を企画し、活動活発化を支援。
- ・機動的な事業活動と安定的な持続運営の実現に向けた検討

(施策②)会員交流の促進: 産総研関西センター様との合同セミナーや交流サロンの開催により、会員間の情報共有や新たなビジネスパートナーづくり等を支援。

(施策③)研究会活動の活発化: 部会と連携のもと、会員企業の研究会活動への参加促進や、当該活動の充実を支援。

(施策④)広報活動の充実: 機構プレゼンス向上に向けて、関連イベントへの出展や、機構活動内容についてマスメディアを通じた情報発信。

## 2013年度の実績

### (実績①)地域連携基盤として全国組込み産業フォーラムをきっかけとし、各事業連携へと発展。

- ・全国組込み産業フォーラムを宮城県で開催。これを皮切りに全国各地域開催に発展。「組込み適塾」「出張展示」「地域連携プラザ」など具体的連携施策の実現と各事業拡大に貢献。
- ・コア技術獲得のきっかけづくりとして産総研オープンラボツアーを試行。来年度は本格的に第2部会での施策に発展させる予定。
- ・産総研との合同セミナーなど継続するとともに、各部会活動に直結し、プライベートセミナーを開催。結果、研究会発足などに繋がった。
- ・持続的・発展的な機構運営の実現に向けた検討を実施し、新たに事務局外から部会長・副部会長に就任いただき新体制確立。

### (実績②)交流サロン等参加は、昨年同様のべ約900名。

- ・産総研との合同セミナーは昨年以上の参加者を得盛況。地域交流プラザin宮城を開催し、240名の参加者を得、当機構会員企業と宮城県他東北企業との直接交流を実現。

### (実績③)研究会活動は、新たな研究会が2件発足。第1部会活動直結の研究会も発足。

- ・研究会報告会をきっかけに参加希望者があつたり、相互連携などの提案もあり、会員主導での活動活発化が軌道に乗ってきた。

### (実績④)イベントだけでなく、各事業の戦略レベルの記事掲載にも繋がりがプレゼンス向上に役立ってきた。

- ・戦略レベルの記事掲載は当機構の理解深化につながり、問い合わせや会員拡充、組込み適塾の受講生拡大などにも繋がった。さらに、全国組込み産業フォーラムでのPR含め、他地域からも連携要請があるようになった。掲載頻度が高くなった(28件)ことも当機構の知名度向上に役立ってきた。

(参照)2014年3月12日 第4回企画運営委員会より